

# ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2023年10月3日放送分・北六番丁と本流】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 伊達政宗の時代に整備された四ッ谷用水の流れを追いかけています。私達は、城下町に入って八幡町から梅田川への吐水口までを追う旅の途中。ここ数か月は第1支流、へくり沢、広瀬川といった関連する場所をご紹介していましたが、今月は久しぶりに本流に戻ります。待ち合わせ場所は、土橋通沿いの青葉区八幡2丁目と柏木2丁目の境。北六番丁の西の端から歴史散歩スタートです。



■ 青葉区郷六で広瀬川から取水した四ッ谷用水の流れは、ずっと地形に沿って丘陵のへりをクネクネ流れてくるのですが、北六番丁を少し東に歩いた場所で、通りに合流して直線的な流れになります。地形本位主義の流れが、町割り本位主義になるというか…。今回、その合流地点と思しき場所を見つける事ができました。林宅寺というお寺の少し先、マンションのバルコニー下になぜか草刈りがされていない敷地が帯状にあります。さらにマンションを過ぎると、その草ぼうぼうの不自然な敷地は坂道を下るように斜めに向きを変え、北六番丁沿いの歩道に合流していました。おそらくこの地下を、四ッ谷用水本流が流れているのでしょう。

〈文・佐々木淳吾〉

■ 北六番丁に合流した四ッ谷用水は、宮町まで一直線に道路の地下を流れて行きます。藩政時代には木町通で第2支流、通町で第3支流が南に分かれ、さらに無数の枝線がつくられるなど、城下町には四ッ谷用水に端を発する堀が網の目のように張り巡らされていました。本流の流れは、八幡町から梅田川の吐水口まで4kmで20mしか下りません。非常に緩やかな勾配を、自然の力だけで流れ下るのが四ッ谷用水本流なのです。次回、その流れを追う旅もいよいよ終幕です。ご期待ください。

